

[付 1] ビキニ事件における日本人科学者の活動
 三宅泰雄「死の灰と闘う科学者」(岩波新書・1972)による

この年の日本分析化学会討論会は、5月29、30日の両日にわたり、日本化学会との共催で京都大学を会場として開催された。その討論課題の一つとして、30日の午後4時から“ビキニ灰”の分析についての課題討論がおこなわれたのである。

発表は金沢大学大橋茂、木羽敏泰氏ほか二名、静岡大学塩川孝信氏、神原富尚氏ほか四名、大阪市立大学の山寺秀雄、西脇安氏ほか六名、東京大学木村健二郎、南英一氏ほか十五名の順でおこなわれた(題目と研究者名を第一表にしめす)。

第1表 ビキニ灰の分析結果報告—題目と研究者

第五福竜丸に降った放射性物質について

木村健二郎	南 英一	本田雅健	横山祐之	池田長生	不破敬一郎	夏目晴夫
石森達二郎	佐佐木行美	酒井 均	水町邦彦	浅田正子	阿部修治	馬淵久夫
鈴木康雄	小松一明	中田賢次				

ビキニ灰(1954年3月1日)の放射化学的研究(その1)

塩川孝信	尾崎徳郎	神原富尚	八木益男	松岡喜保	高橋絢子
------	------	------	------	------	------

第五福竜丸より採取せる放射性塵埃について

山寺秀雄	工藤一郎	三輪哲雄	森 正保	神田精一	西脇 安	河合 広
表野 篤						

いわゆる「原爆マグロ」に付着せる放射性物質について

木羽敏泰	大橋 茂	柴田村治	水辺忠昭
------	------	------	------

日本分析化学会『分析化学』第3巻, 1954年

第7表 第2次俊鷗丸調査団員名簿

魚類等生物関係の調査

矢部 博(調査団長・魚類)	水産庁南海区水産研究所
三村皓哉(魚類)	水産庁南海区水産研究所
本間 操(魚類)	水産庁南海区水産研究所
戸沢晴巳(水産化学)	水産庁東海区水産研究所
河端俊治(水産化学)	国立予防衛生研究所
大野 駿(水産化学)	東京大学農学部水産学科
前田 弘(生物)	水産庁水産講習所
赤松幹彦(生物)	東京大学農学部水産学科
村野正明(生物)	東京大学農学部水産学科

海水雨水大気関係の調査

岡野真治 (原子物理)	科学研究所山崎研究室
沼宮内弼雄 (生物物理)	日本原子力研究所
亀田和久 (海洋化学)	気象庁気象研究所
寺田喜久雄 (海洋化学)	名古屋大学理学部化学科
八木益男 (分析化学)	静岡大学理学部化学科

海洋関係の調査

堀 定清 (海洋物理)	海上保安庁水路部
島野次夫 (海洋物理)	海上保安庁水路部
大坪久泰 (海洋物理)	東京水産大学海洋学科

海上気象関係の調査

庄山卓爾 (気象)	気象庁東京管区気象台
福島正久 (気象)	気象庁富士山測候所

環境衛生関係の調査

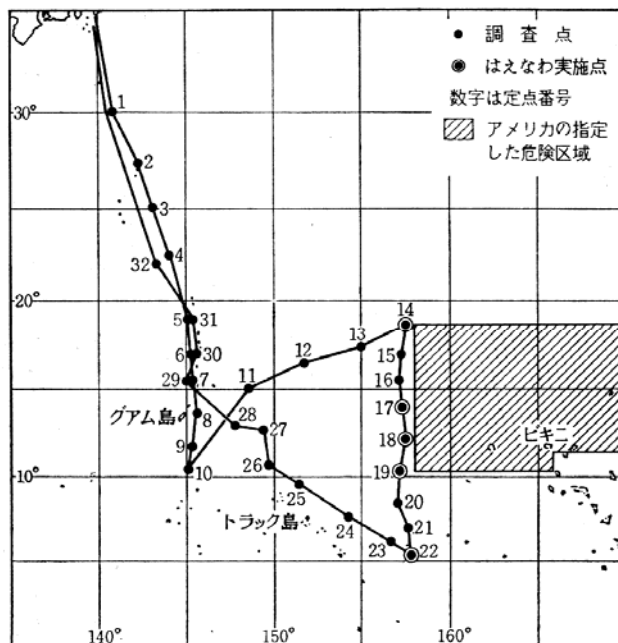
浦久保五郎 (環境衛生)	国立衛生試験所
--------------	---------

健康管理関係の調査

星子直躬 (医学)	東京医科歯科大学第二外科
-----------	--------------

陸上での身体検査 (乗船前及び下船後)

宮川 正 (放射線医学)	東京大学医学部放射線科
中尾喜久	東京大学医学部沖中内科
三好和夫	東京大学医学部沖中内科
高橋忠雄	東京大学医学部田坂内科
岩本 淳	東京大学医学部田坂内科



俊鶴丸航跡図(第2次)